令和６年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 城北小学校 】

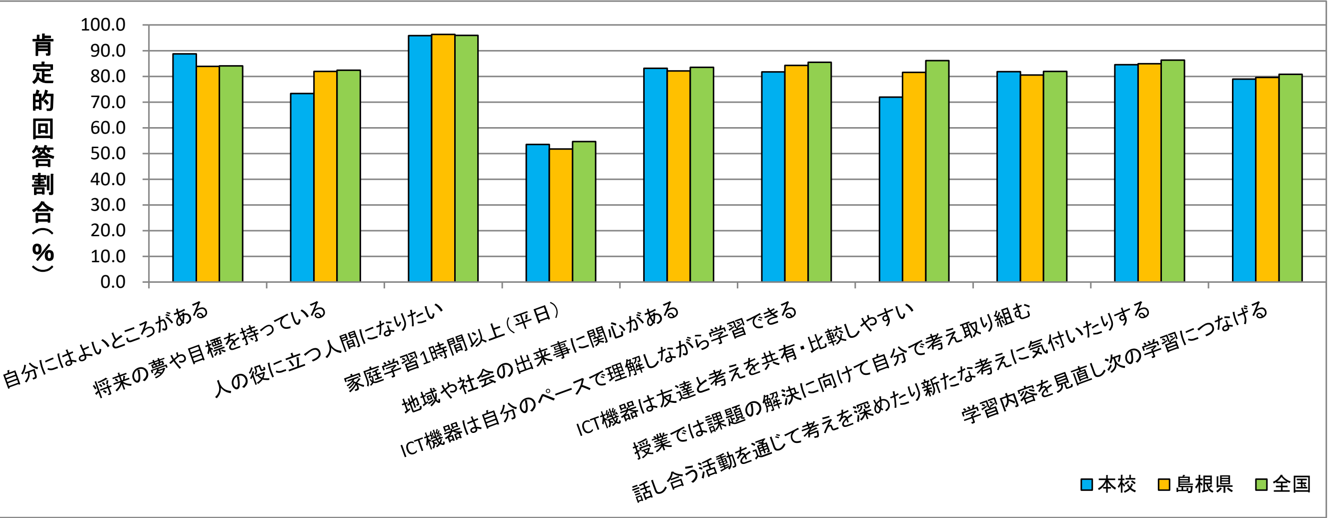
(1)学力調査結果から見られた傾向

| | 成果と課題(〇：成果，●：課題) | 対　策(・) |
|---|---|---|
| 国語 | 〇無回答率が低く、課題に向かおうとする意欲が高い。<br>〇資料と照らして読み取る力はついている。<br><br>●出題者の意図に沿った回答を考えることが難しい。<br>●複数ある資料の中から、自分の必要な情報を抜き取ることができていない。 | ・問題文で重要だと思う箇所に線を引く、問題の中に人物が出てくるときなどは名前を書いてはっきりさせるなど、自分への支援を習慣づけていく。<br>・複数ある資料から自分の必要な情報を抜き取る活動を、国語に限らず、社会科など他教科でも意識して行い、力をつけていく。 |
| 算数 | 〇特に「数と計算」の領域が高い。<br>〇「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも県・全国の平均正答率を上回っている。<br><br>●自分の考えを言葉や数を使いながら説明することが苦手。<br>●何を聞かれているのか、何を答えればよいのか読み取ることができていない。 | ・授業中に、考えたことや式を立てた理由を、言葉や数を用いて書いたり説明したりする活動を取り扱う。<br>・聞かれていることは何かを正しく理解するために、問題文の中の重要な言葉を丸で囲んだり線を引きながら読んだり、必要な情報にチェックを入れる習慣をつける。 |

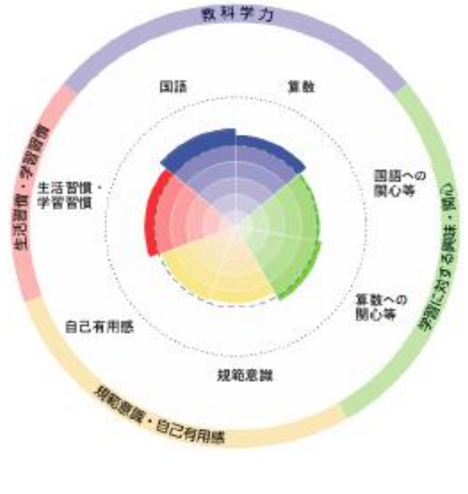
(2)質問紙調査から見られた傾向

| | 成果と課題(〇：成果，●：課題) | 対　策(・) |
|---|---|---|
| 質問紙 | 〇外国語専科教員がいることで、英語の勉強が好き、また内容を理解している児童の割合が全国と比べ15pt程度高いと考えられる。<br>〇教員が児童のよさを認め、意識して伝えていることで、自尊感情を高めている児童の割合が高い。<br>●ICT機器を使って、考えを共有したり比べたり、自分の考えや意見を伝えることができる児童の割合が低い。<br>●自分の考えを表す項目にマイナスが多い。 | ・教員がICT機器の研修を受け、積極的に授業の中で活用する場面をもち、その便利さを体感させる。(SKYメニュー、ふきだしくん等)<br>・ほくほくタイム(スリンプル・プログラム)の徹底。継続して取り組むことで、考えを表すことへの抵抗感をなくす。 |

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)




(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)




(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・ICT機器の活用
・自分の考えを説明したり、自分なりの読み取りの工夫を伝えたりする場の設定。全体での共有。

【受検者数】

71 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。